

西暦 2000 年国際肝臓学会・アジア太平洋肝臓学会合同会議

平成 12 年 6 月 2～7 日 福岡シーホークホテル

新漢方処方「養生片仔癩」の、様々な種類の肝臓病患者における 血中ALT(GPT)とAST(GOT)に対する効果

謝心範 ((有)漢方養生研究所)、原田雅義 ((医)東明会原田病院)、
矢内原昇 ((株)矢内原研究所)

<目的>

本研究の目的は、C型ウイルス性肝炎を含む様々な種類の肝臓病患者における、新漢方処方「養生片仔癩」の血中ALT(GPT)とAST(GOT)に対する効果を調べる点にある。

<背景>

我々は、既に「養生片仔癩」が起炎剤としてD-グルコサミンを用いたラットの実験的肝障害モデルにおいて、血中ALT(GPT)とAST(GOT)減少させる事を確認している。

<成分>

田七人參、田七杜仲精、黄精、甘草

<方法>

医師の管理下で、C型ウイルス性肝炎を含む様々な種類の肝臓病患者に対して、1回1gの「養生片仔癩」を1日3回、毎食後に経口投与した。

<結果>

被検者の血中ALT(GPT)とAST(GOT)は「養生片仔癩」を10日間服用することにより著しく減少した。

(平均で、血中ALT(GPT)は服用前値の18%に、またAST(GOT)は59%に減少した)

<結論>

- ① これらの結果より、新漢方処方「養生片仔癩」は様々な種類の肝臓病患者において、増加した、血中ALT(GPT)とAST(GOT)明らかに減少させることが判明した。
- ② 試験期間中を通じて、いかなる副作用も認められなかった。